

マツダ、来春新工場

車向け部品生産 拡充

マツダ（大阪市城東区、松田英成社長、06・6968・4981）は、兵庫県三田市に自動車や建設機械向けに特殊ナットなど冷間圧造部品の新工場を2018年4月に建設する。本社工場に加え新工場稼働で自動車用部品などの生産体制を強化する。医療・エネルギー分野など新規事業進出に向けた研究開発機能も持たせる。総投資額は約3億円。製造品目を増やし、19年5月期の売上高で現状比1億円増の5億5000万円を目指す。

医療機・エネ 進出視野 研究開発機能も

新工場は1階建て 4平方メートル。主要設備と工を行う量産機1台とで、延べ床面積125平方メートルとして金属の冷間圧造加工2次加工機2台を設置



する。研究開発用に高精度加工ができるサーボプレス機

ス機1台も導入する。工場稼働時は3〜4人でスタートするが、設備や人員を順次増強し、将来的に15人程度で運営する計画。

また、IOT（モノのインターネット）を活用し、生産設備の稼働状況の「見える化」にも取り組む。設備の故障予知や、生産性向上にも役立てる。医療機器など新事業への進出に向けて、アルミ加工やチタン加工にも挑戦し、一層の軽量化を目指す。

新工場に設置する研究開発用のサーボプレス機

け程度の薄型部品の加めるが、今後は医療機工に強みがある。18年器や航空機分野にも進には創業50周年を迎え出す計画で、新たなる。現在は売上高の約収益の柱を育てたい考7割を自動車部品が占え。